特定非営利活動法人 GNC Japan
http://www.kyouzon-gnc.com

２０１３年度

ＧＮＣ活動報告

平成２６年３月

ハワリンバヤル

開催日時：2013　年　5　月4　日（土）～5　月5　日（日）
開催場所：光が丘公園
5月4日・5日　に、練馬区光が丘公園でモンゴルの春祭り、「ハワリンバヤル2013」が開催されました。

GNC　は、5月4日、5日　の2　日間とも出展しました。

GNC　のブースにも、モンゴルに興味のあるたくさんの方々が来てくださいました。ありがとうございました！
今年もモンゴルでの植林が始まりました。今回の売上金及び寄付金は、モンゴルでの植林活動に使わせていただきます。

第12回NGO合同研究＆報告会

6 月 9 日に、合同研究会を開催しました。

私たち GNC メンバーだけでなく、主に中国内モンゴル自治区で活動している「一般社団法人地球緑化クラブ」、主にモンゴル国で活動している「板橋モンゴル孤児支援の会」のメンバー、そしてモンゴル国からの留学生と多くの方々にお集まりいただき、充実した報告会となりました。

【発表団体】
『一般社団法人地球緑化クラブ』
活動地：中国内モンゴル自治区クブチ沙漠・日本国
E-mail:office@ryokukaclub.com http://www.ryokukaclub.com

『特定非営利活動法人GNC Japan』
活動地：モンゴル国・日本国
E-mail:kyouzongnc@gmail.com http://www.kyouzon-gnc.com

【発表者】
『一般社団法人地球緑化クラブ』

発表者：原鋭次郎氏（地球緑化クラブ代表理事）
（テーマ）「新しい緑化技術の開発と研究」

『特定非営利活動法人GNC Japan』

発表者：宮木いっぺい（GNC Japan 代表理事）
発表者：小川安里（GNC Japan 事務局）

板橋区内　環境教育への取り組みを取材

1

2

板橋区における環境教育の取り組みを取材しました。

今回の取材の目的は、日本の環境教育の現状を知ることです。そしてそれをヒントに、「モンゴル」の環境教育カリキュラムを模索していこうと思っています。

6 月 21 日　板橋区立しらさぎ保育園、 6 月 27 日　板橋区立志村第三小学校訪問。

お忙しい中　帯刀優子園長には園内を案内していただきながら 「いのち」のつながり・営みを五感で感じ取る豊かな感性を育み、環境に配慮した生活意識を高めていきたいという手作り感あふれる保育について、また、久慈玲子副校長には地域住民と密着した一貫した環境教育への取り組みなどとても興味深いお話を聴くことができました

写真 1　しらさぎ保育園　帯刀優子園長

写真 2 緑のカーテンと耐震強化された志村第三小学校

私たち GNC は、昨年セレンゲの幼稚園の子供たちに「アカマツのあかちゃんの夢」というモンゴル語と日本語が記載された絵本を配布しました。そして今年、長年の付き合いがあるエコロジー教育センターと一緒に、「モンゴル」の環境教育カリキュラムを一緒に作っていこうという話が持ち上がりました。

私たちが活動を初めて、18 年が経ちました。5 年ほど前にモンゴル国に行った際、国民の関心は、いかに経済的に豊かになるかということだった気がします。しかし現在、都心部ではその関心が少し変化しているような気がします。今年の 5 月にモンゴルへ行ったとき、経済的な豊かさ＋αを求めるようになって来ていると感じました。

例えば家の広告には、緑が周りにある家の様子が描かれています。また、ウランバートルの中心部のあちこちに公園がありますが、以前のような公園の空間があるというだけでなく、緑が整備された公園が作り上げられています。以前は土地買収とビルの建設にしか興味が無いようだった都市開発が、少しずつ変化しているようです。しかし一方で、ウランバートルを一歩離れると、ビニール袋が舞う草原に出くわします。ゴミ捨て場の近くは悲惨です。

まだ一部かもしれません。自分の周りだけかもしれません。ですが、少しずつ環境への関心も高まっているような気がします。

これまで私たちは、モンゴル国内に多くの木を植えてきました。木を植えることで、それに従事する人々に対し、少しでも職と収入が回る、そういうことを考えてきました。今後ももちろん木を植えて行きます。ですが目に見えるところに木を植えるだけでなく、目に見えないところに、種をまく、そういう活動が出来ればいいと思っています。

まだまだ始まってもいませんが、私たちとモンゴル国の人々とで、協力して環境教育のカリキュラムを作っていくためには、まずは身近な日本の環境教育の先進モデルを勉強することが早道であると考えました。モンゴル国内の「環境教育プログラム」を作っていけるよう、頑張っていきます。

板橋区立エコポリスセンター訪問学習

日時　　2013 年 6 月 23 日（日）10:30～12:00

参加者　　在日モンゴル留学生 4 名　GNC　Japan スタッフ＆関係者　3 名

1　環境ミニ教室

講義　　テーマ　　地球温暖化について

実習　　植物の CO2 吸収の数値化

講師　　板橋区立エコポリスセンター　環境学習指導員　　鈴木敏祥氏

最近では　日常的によく耳にするようになってきた地球温暖化とその原因となる温室効果ガスの増加を食い止める日常的な行動などについて具体的に考える良い機会となりました。ミニ実習では　実際に植物の光合成による CO2 の吸収を目で見える形で楽しく体験すること

もできました。現在　板橋区では　毎年　希望者にゴーヤ　朝顔　糸瓜などの苗を配布して緑のカーテンを普及させる取組をしています。その効果としては　日光をおよそ 80 パーセント遮りさらに蒸散効果により温度を 2℃ほど下げることができ、その結果　植物による CO2 の吸収はもちろん　全体として消費電力削減による CO2 排出削減にも効果的であるとのことです

環境学習指導員　　鈴木敏祥氏

実習　植物の光合成による CO2 の吸収の数値化

実習に使用した　CO2 検知器　と　ビニール袋

葉っぱにビニール袋を被せる

袋に息（CO2)を吹き込む

検知器で CO2 濃度を測定

紫色に変化した数値を測定

1 時間ほど館内見学の後再び CO2 濃度（ppm）を測定の結果　ゴーヤ（2.200→0.125）　その他植物も　おおよそ 3 分の 1 以下に減少していた

2　館内見学

エコポリスは　建物全体が　環境を考慮して　さまざまな工夫がなされエコロジカルに機能しています。　たとえば、

①エコサークル（地下まで各階が十分な光を取り込むよう設計）

②2 重壁構造（温度変化に対応　省エネ効果）

③自然光を十分取り込む

④太陽光発電（4 人家族一日分の電力約 10 キロワットを供給）

⑤太陽熱集熱器（夏季は 90℃前後のお湯をドラム缶 4.8 杯分つくる）

⑥雨水利用システム（雨水貯留槽はセンター内のトイレ 6 日分の流し水使用可能）

⑦リサイクル利用

古タイヤ再生利用したタイル

カラーボトルを再生利用したタイル

⑧屋上緑化(野菜つくり)　緑のカーテン

ビオトープ（生物生息空間）

さまざまな生物の生息状況を観察できます　ちょうど トンボの幼虫ヤゴが育っていました。このヤゴは 「ヤゴ救出作戦」と題して区内の保育園などで出前学習を行い 園児たちによって飼育される予定だそうです

その他　見学に来た子供たちがその場で　楽しみながらエコを学習できるコーナーがあります　この日は　お面作りが行われていました、遊びながら　できるだけ無駄をなくし　ゴミをいかに少なくするかなどの工夫もさせるのだそうです

また　住民向けに　さまざまなリサイクル資源の回収コーナーも設置されています

。

エコポリスセンターの見学を終えて　まさに　モンゴルの　エコロジー教育センターの今後の新たな重要な役割とぴったりと重なったような気がしました。もちろん　両国の条件は異なると思いますが、その基本的な役割は　各教育機関　一般市民に向けて　一歩進んだエコロジカルな機能を目に見える形で自ら示し　　さらによりわかりやすい様々な教材を開発し　その学習の場を積極的に提供していくことではないかと思われます。GNC　Japan としても　その実現のために参考となる情報提供など　今後も協力を続けていきたいと考えています。

モンゴルエコツアー

今年は 9 月 7 日(土)～14 日(土)まで、GNC メンバーでモンゴルエコツアーを実施しました。スタッフ以外の日本人も参加し、今年もすばらしい出会いの旅となりました。

モンゴルに着いたのは夜の 8 時(日本時間だと 9 時)頃。予定より 1 時間遅れての到着でした。

毎年モンゴルに来ていますが、街中はどんどん変わっていきます。

今や、”KARAOKE” “KORIAN RESTRAUNT”は定番。車もずいぶん増え、ウランバートル市内は夜遅くまで渋滞でした。夜は予想していたように少し肌寒く、長袖のカーディガンを着ていても寒く感じました。それでもホテルの中はとても暖かく、期待以上に快適でした。

一転して、朝は静かな街並みが。せっかくの日曜日、モンゴルの朝は遅い。

一同、ロシアとの国境の町、セレンゲ県スフバートル市へ。

今年は珍しく、雨のモンゴルを体験しました。初モンゴルの人には、少し残念な景色でしたが、毎年行く私たちには珍しい体験ができました。

今年の夏は、モンゴルでも日本の梅雨のような雨が降ったとか。温暖化の影響が出ているようです。雨でどんどんと気温が低くなり、ついには 5 度まで下がりました。モンゴルに来る前、日本は 30 度まであったのに…。

私たちが向かうセレンゲ県スフバートル市には昔、永遠に続くアカマツという意味の「トジンナルス」と呼ばれる森が広がっていました。現在は、火災、不法伐採、家畜の増加などの様々な要因により、点々と続くアカマツがあるばかりです。

そのトジンナルスに、GNC は 2004 年から毎年アカマツを植え続け、

今年(2013 年)までに 100 万本を突破しました！！

2004 年に植えたアカマツは、こんなに大きくなりました！！

昨年植えたアカマツも視察してきました。2004 年のアカマツも最初はこんなに小さかったんですね。

翌朝、一転してすばらしい快晴。これぞ、モンゴルの空。

気持ちのいい青空の中、セレンゲ県のある幼稚園を訪問しました。この幼稚園は環境がとても整備されていて、園内には花と緑と遊具があふれたとてもきれいな施設でした。

この幼稚園の植物は、先生方が節約して貯めたお金を使って、土日に先生方自身で植えたものだそうです。周りにはゲル地区が広がるような、そこまで裕福な地域ではありませが、先生方の気持ちが入った施設だなと感じました。

セレンゲ県内の各幼稚園には、昨年(2012 年)、GNC で作った絵本がセレンゲ県自然環境局の森林課長から配布されました。

訪問先の幼稚園では、その本を元にした「アカマツの赤ちゃん」の劇を、園児たちが見せてくれました。

　モンゴルは 9 月 1 日から新学期がスタートします。私たちは初めてのお客さんだったようで、子供たちも緊張気味。私たちが、「まぁ！」とか「かわいい！！」とざわざわしていた本番直前、「先生、おしっこ！」と微笑ましい場面も。

「アカマツの赤ちゃん」の劇は今後、子供たちの保護者や地域の方々にも見てもらうようです。他の幼稚園にも広がり、小さい頃から当たり前のように木や周りの自然を大切に思ってくれるようになればうれしいですね。できることから少しずつ、このような先生と出会えるからこそ、NGO 活動が続けられるのかもしれません。これから、モンゴルの幼稚園や保育園での教育に力を入れていきたいと思っていた私たちへの、とても大きなプレゼントでした。

幼稚園訪問後、エコツアー参加者全員で遊牧民のゲルを訪問しました。

ゲルでは、乳茶(スーテーツァイ)とモンゴルのチーズ(アーロール)、そして牛乳で作った蒸留酒が振舞われました。日本では食べ慣れない味に、少しびくびく。

その後、乗馬を体験。私たちが馬に乗ることよりも、運転手さんが格好良く馬を乗りこなしているのに夢中でした。

絵になるって、このことですね！

一日の最後には、とてもきれいな夕焼けが。エンジェルラダーがはっきりと。

皆、写真を撮るのに夢中！

ウランバートルまでの長い長い道のり、どこにカメラを向けても撮りきれない風景。世界には、自分の想像を超えた、広大な世界が広がっているのを感じます。写真では分からない風景、でも、どうしても写真に残したいと思う風景、そんな風景に遇うのが、旅の醍醐味かもしれません。

夜には宿泊先で、モンゴルの方と一緒にホーショールとボーズを作って食べました。皮作りが難しく、手伝っているはずなのに手伝いになっていないという残念な結果に。

宿泊先の GNC Japan 教育センターで採れた野菜のサラダ、セレンゲのザハで買った燻製の鮭、モンゴルウォッカも並べ、皆でパーティ。旅の疲れなんて何のその！

GNC モンゴルエコツアーの最大イベント、エコロジー教育センターでのエコ教室を実施しました。今年は、3 校から 13 歳～17 歳までの 50 名ほどの学生達が参加。

日本に留学しているモンゴル人留学生が、板橋区のエコポリスを紹介し、日本のエコへの取り組みを子供たちに説明してくれました。

中には熱心に質問をする生徒も。

休憩中も、直接質問をしようと、留学生や私たちの周りに集まる生徒たちが！？

GNC も日本の保育園を紹介し、モンゴルでもできるエコ活動について一緒に考えてもらいました。

それぞれの学校毎に別れて座り、各グループから 1 つずつ意見を出してもらいました。

今年も、色々とトラブルはあったものの、無事エコ教室を終了できました。今後どのようなエコ教室がいいのか、まだまだチャレンジする余地はありそうです。

今回初の試みは、GNC Japan 教育センターでの教育活動。地域の方々が作った製品を日本で売る、フェアトレードを始めようと、地域の方々に集まっていただきました。

皆さん、裁縫はおてのもの！すいすいと進めていきます。

皆でフェアトレードのための製品を作り、生活費に役立てる。そのこと以上に、お互いに知らなかった住民同士が仲良くなること、そしてそのような場所が提供できること、フェアトレードは人と人が繋がる新しい場を作ってくれるものかもしれないですね。そしてそれが、次の何かに繋がるかもしれない。そんな可能性が見える楽しい場となりました。

途中、日本 vs. モンゴルの歌合戦が勃発！モンゴル側は初対面の方々のはずなのに、息ぴったりのハーモニーに、拍手の嵐。大いに盛り上がりました。一緒に昼食を食べ、最後は笑顔でバヤルタイ「さようなら」。「次は私の家に遊びに来てね！」と、最後の最後まで歌って終わる、楽しい交流となりました。

また来年が楽しみ！

最終日、青年海外協力隊員の方に案内してもらい、モンゴルのゴミの最終処分場に足を運びました。ゴミ最終処分場は JICA の支援で作られ、2009 年～2020 年分のゴミを埋め立てる予定だそうです。広大な埋立地には、重機はあまり見当たらず、それ以上に人の姿が目立っていました。運ばれてきたトラックに人が集まり、ビンや缶、鉄製品など、売れそうなものを集めている光景は、日本人には見慣れない風景だなと思いました。

モンゴルでは、分別の習慣がないため、市内をめぐるゴミ収集車が運んできたごみは紙、ビニール袋、缶、ビン、鉄…etc. など、色々なものが混ざっています。その中から売れるものを探し、集めて生計を立てている人も沢山いるようです。そのため、実際に最終処分場に埋めたてられるリサイクル可能なごみは少ないそうです。必然的に、リサイクルの仕組みができているようです。

もう一箇所、2009 年以前の埋立地も見学しました。そこは草木が植林されていて、一同はビックリ！！今後、根付いてくれることを期待したいです。

最終処分場からウランバートル市内へ帰ろうとしたときに見つけたのが、リサイクル工場でした。ここでは、ビニール製品からマンホールの蓋や柵用の棒を作っているようでした。これまでモンゴルでは、マンホールの蓋を鉄で作っていたのですが、盗まれることも多くありました。柵も、これまでは木材や鉄製でしたが、盗まれることが多かったものの一つです。これらの問題を解決し、しかもリサイクルを進めるという意味で、この工場は画期的なようです。とても興味深いものを発見し、一堂見入っていました。

今回のエコツアーも、とても実りあるいい旅でした。とても幸せなことですが、毎年モンゴルエコツアーの後には、「今年もよかったね！」とスタッフが口をそろえて言います。モンゴルに来ると、元気と新たな可能性をいつも見つけることができる気がします。今回のエコツアーで特に感じたのは、人との新たな繋がりでした。幼稚園での新たな可能性、そして、私たちの活動に共感してくださる方々との出会い。エコツアーに参加してくださった方々、そして協力してくださった方々にたくさんの「ありがとう」を伝えることができたらうれしいです。

参加された方の感想文をご紹介します。

JICA青年海外協力隊
平成23 年度3 次隊（環境教育） 木下 聡

今回様々な縁と、私からの希望もあり、9 月7 日～14 日のエコツアーのうち、8 日、9 日のセレンゲ県植林地視察と11日のエコ教室に参加、13日には私の活動フィールドであるゴミ処分場の案内をさせていただきました。

セレンゲの植林地視察では最初に昨年植えた5～10cm ほどの頼りない小さな苗木を見た

後、2004 年に植え見事に森となったアカマツを見ました。先に昨年植えたかよわい姿を見た後だったので、私たちの背丈を越えて整然と並ぶアカマツを見た時には長年にわたる活動の結実に対して大きな感動を覚えました。翌日の幼稚園では可愛い子供たちの発表を見て、GNC に賛同して協力してくれているこの幼稚園の先生方の真摯な取り組みに感銘を受けました。

11 日のエコ教室は日本の事例紹介だけではなく、それを見てモンゴルでは何ができるかを学生たちに問いかけ、自分たちで考えて発表させるワークショップ方式がうまくいき、活発に意見が出ていて勉強になりました。また通訳だけでなく自らもプレゼンを行った留学生の活躍も印象的で、様々な人たちが集まり協力している姿にGNC の魅力も感じられました。

13 日は依頼を受けて、ウランバートル市のゴミ処分場を案内しました。現在の処分場だけでなく、2009 年に埋め立て終えた旧処分場の植林現場を見ることができたことで、大きな収穫がありました。案内してくれた職員が依然緑化関連の部署にいたため、今後この場所での植林にも協力ができるのではないかという話が出たことです。

一連のツアーに参加し、GNC が取り組む「人づくり」と「森づくり」、また私が現在青年海外協力隊として行っている「環境教育」が根底でつながっていることを感じました。それは成果はすぐに見えないけれど、継続し、積み重ねていけば将来確実に成果が表れてくるということです。木も人もすぐには一人前にはなりません、長い時間をかけ少しずつ成長していきます。環境教育もすぐには成果が現れません。1 回1 回の授業で生徒達がいい反応をしてくれたとしても、それによって街中のゴミが一掃されたり、環境破壊がピタリと止まるわけではありません。自然環境を大切にする人たちが育ち、増えることでようやく変化が現れます。な解決策がないからこそ、地道で長期的視野に立ち、継続することが重要である点でそれらは共通しています。9 年間をかけて森を形成し始めた植林地を見てそのことを改めて実感させられました。1 年半以上モンゴルで活動していてモンゴルの人たちには長期的プランを立て、一歩一歩作業することを不得手とするきらいがあると、感じる部分がありますが、「自然環境」、そして「教育」の分野には5 年後、10 年後の成長した姿をイメージすることが不可欠です。GNC の「森づくり」、「人づくり」の活動がそうした大切さをモンゴルの人たちにも根付かせられることを切望して止みません。もちろん私も協力隊の隊員として微力ながらも貢献できればと考えています。

今回ツアーに同行し、GNC の活動の理念やこれまでの成果を垣間見ることができ、スタッフの方々の素敵な人柄にも触れることができてとても有意義な経験となりました。これを機に今後も引き続きGNC の活動に協力していきたいと思います。

株式会社アールキューブ
松永 康利

NGO「GNC Japan」の方達に同行させて頂き、植林活動のいろはを9 月7 日から4 泊5 日のエコスタディ・ツアーという形で教えて貰った。

代表の宮木いっぺいさんの言葉が印象深い。
「その貢献でそこに住む人達が笑顔になるのか？これが基本なんです。」
以前は植林ボランティア団体も多数あったが今では片手で数えるほどだという。その消えていった団体の殆どが「とにかく木を植える」だけ。枯れようが山を荒らすことになろうが、とにかく植林数を公表して満足気だったという。モンゴル植林活動で最古参の類に入るGNC はそれらを横目に堅実な土地調査、行政との折衝、良質な苗の確保に力を注いだ。その成果をセレンゲ県ロシア国境近くの山中で見ることが出来た。９年かけて育った高さ3m近くの赤松林を。松ぼっくりがやっと実ったのはこの１、２年。その９年間で森林火災や家畜による被害は何度もあったという。しかも火災はロシア側からの放火だという。伐採が許されない場所であっても山火事などで木の表皮が焦げれば切り倒しても良いという決まりのため悪質な業者が火を放つ。これには心底驚いた。
併せて驚いた事をもう一つ。こんな国境付近の山中でも携帯電話が楽々通じるのだ。
ゴミの放置、不衛生なトイレ、貧困に喘ぐ子供、そんな国の山中で。
近代国家が踏んだであろう文明の過程をすっ飛ばしていきなり「スマホ」なのだ。基本的なライフラインは整備が追い付かず国民の平均寿命も短い。
その歪みのもとは「教育の欠如」ではとGNC の宮木いっぺい代表が植林活動を通して語ってくれた。

「木を植えるといってもいつまでも日本のボランティアが続けるのはおかしい。モンゴルの人達の手による植林活動が目標。GNC はただ木を植えるだけではなく“ なぜ木を植えるのか ”を啓蒙していきたい。その教育があってこそ真の植林活動だと思います。」
その教育の一端をセレンゲ県の第７幼稚園で垣間見た。
GNC が幼児教育用に配布している絵本「アカマツの赤ちゃんの夢」を寸劇にして園児達が披露してくれたのである。木を育てることの大切さを３～５歳までの子供たちが体いっぱいで表現。そこに「みんなが笑顔になる貢献」の着実な広がりを実感した。
僕が代表を務める（株）アールキューブはGNC を通じてモンゴル植林活動に取り組んでいるが、今回の旅でさらにその思いを強くした。他にもゲルでのおもてなし、孤児院表敬訪問、草原での乗馬（ちょっと走った）、満天の星観察、農場視察、パリダカなみの悪路などなど語れば尽きない。
　結びにGNC のいっぺいさん・あきこさん・ようこさん・あんりさん・ツォゴーさん・オチルさん。素晴らしい出会いに妻共々感謝！それではまたモンゴルで！

株式会社アールキューブ
松永 美湖

この度、9 月7 日から11 日までGNC モンゴルエコツアーに同行させていただきました。
始めから終わりまで、GNC の皆様のモンゴルに対する情熱を感ぜずにはいられない感動的

なツアーとなりました。
8 日にはセレンゲ県の植林地を視察し、山火事が残した大きな傷跡を目の当たりにしました。
無残にも横たわる焼け焦げた木々。
大地に根を張り、そこにそびえていようとも、伐採される運命にある焼けてしまった赤松。
今も抱える様々な問題と継続的な支援の必要性を知りました。
しかし、足元を見れば小指ほどの小さな赤松の苗木が、殺伐とした大地に根付いているではありませんか。それは昨年、GNC の方々が植えた苗木だとか。
広大な土地に一本一本手作業による植林作業は、容易なことではないと思います。
その後、2004 年にGNC が始めて植えた植林地にも視察をさせていただきました。
小指ほどの小さな苗木が9 年と言う歳月を経て、人間の背丈をとうに超え、大きく成長している姿には非常に感動いたしました。
また、昨年には9 歳にして初めて松ぼっくりをつけたと言うお話しを聞き、一人前に育てるまで、地道に手を掛け見守り続けた努力が実を結んだと更に感動いたしました。
翌日にはダリアやコスモスの美しい花が咲く第七幼稚園を訪問させていただきました。
どの国においても決して変わることのない、子供達の天使の笑顔に癒されたひと時。
その後はホールにおいてGNC の矢野さんが手がけた絵本を脚本にした劇を拝見しました。
子供達が緊張した様子で、一生懸命に演じていた姿は今も忘れることは出来ません。
素晴らしい歌と踊りで幕を閉じた劇。感動と同時に、「GNC の植林活動は、
モンゴルに住むその人たち自身が環境保全に対する意識を高める為の一つの活動であり、
全てが『教育』に繋がっている」と言うことを実感いたしました。
どんなにか弱い苗木も、育てる人がいれば、年月を経て立派な大樹へと育っていく。
「人と人との共存」「自然と人との共存」「過去・現在・未来の共存」を目的とされている
GNC は、非常に大きな役割を担われていると思いました。
4 日間と言う短い期間ではありましたが、代表の宮木さんを初めスタッフの方々と様々な問題を熱く語り合ったことも、今回のエコツアーの良い思い出となっております。
今回のツアーに参加させていただき、会社として社会的使命をどう果たしていくのか。
色々な事を考えさせられました。
モンゴルの現状を知った今、モンゴルの未来の為、GNC の皆様の活動を今後も応援させていただきたいと思っております。この度は大変に有難うございました！

2013 年度在日モンゴル留学生会・会長
東京工業大学理学部
情報科学科4年 バトチュナグ

今年初めてGNC のモンゴルでの活動に参加することができました。9月の夏休みにちょう

どモンゴルに帰っている間に参加できて嬉しく思っています。GNC の皆様 ありがとうございました。

私はGNC のモンゴルエコツアーの全てのイベントには行けませんでしたが、ウランバータル市での１日の活動に参加しました。午前中はモンゴル国立大学エコロジー教育センターを訪問して、元気な生徒たちに対してエコ教室を開きました。午後には第42 幼稚園に行きまして、園児たちの素晴らしい演奏を楽しむことが出来ました。本当に忘れられない一日を過ごしたと思います。

活動の一部であるエコ教室ではモンゴル人の高校生や中学生に、以前6月に訪問した 板橋区立エコポリスセンターについての話をしました。ビル自体もエコであるエコポリスセンターを見て、ウランバータル市にも似たような施設があって欲しいなと生徒たちが話し合っていました。また、みんなで環境教育について議論しました。最初に何を話せば良いかを分からなかった生徒たちが議論してくるとどんどん新しいアイデアを発言していまして、ずいぶん盛り上がりました。小さい頃どのような環境教育を受けていましたかという話をしている間に私も自分の小学生の時を思い出して、本当に楽しかったです。

午後に第42 幼稚園にお邪魔しましたがおそらく、弟の幼稚園卒業以来のとても久しぶりの幼稚園の訪問だと思います。日本からの来訪者たちの為に園児たちがまじめに練習したお遊戯を発表しました。自分では覚えていませんが、私は園児の時に詩を朗読したことがあること両親から聞いています。でも、第42 幼稚園の園児たちほど上手ではなかったでしょう:）。第42 幼稚園とGNC を繋いでいるのがやはり園長だと思います。園長が以前日本で研修生として留学したということを聞いて感動しました。園長が留学して色々なことを習って、モンゴルで園児たちのために働いているでしょう。私も勉強を頑張って将来、後輩たちや子供達の為に貢献できる人間になりたいと思っております。

東京大学工学部 3 年
バータルフー ウンダルマー

GNC Japan のモンゴルエコツアーによって、毎回貴重な経験をしています。今回はエコロジー教育センターにて行われたエコ教室と、学校や幼稚園訪問に参加いたしました。

エコ教室では、板橋区のエコポリスセンターに訪問したとき経験したことや感想を生徒たちに紹介しました。自然や環境に興味ぶかくて、熱心に議論する生徒たちをみて本当に嬉しかったです。将来にモンゴル国を背負って行く人々がよく育っていますねと思いました。

さらに、母校により優れた新しい教育システムを導入しようとする第18 学校の先生方と、育児教育プログラムにエコロジー教育を導入するために行動をしている第42 幼稚園の先生方をみて本当に感動しました。このことからモンゴルでは、教育システムのあらゆる段階で、環境教育を大事にする志向が広がっていることが見えました。

これからもGNC の活動にできるだけ参加して、少しでも役に立てたらと思います。

グローバルフェスタ2013

開催日時:2013 年 10 月 5 日(土)～10 月 6 日(日)

開催場所:日比谷公園

お蔭様で、2 日間のグローバルフェスタを無事終えることができました。

雨天で足元が悪い状況でしたがグローバルフェスタ 2013 には約 78,000 人の来場者でした。

ブースに来てくださった皆様ありがとうございました。

そして準備や段取り等で尽力してくださったスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。

エコプロダクツ2013

平成 25 年 12 月 12 日(木)～14 日(土)、東京ビッグサイトにて行われたエコプロダクツ 2013 に参加しました。
出展団体数は 750 団体、3 日間の来場者数は 169,076 人でした。

GNCは 3 回目の参加で、「森から始まるエコライフ展 2013」というコーナーの中でブースを出させていただきました。森林・植林関係に興味のある方がブースを訪れてくださいました。

今回、お忙しい中お手伝いしてくださった方をはじめ、ブースに足を運んでくださった方々、どうもありがとうございました。

GNC Japan 2014 年の新年会

1 月 19 日に 2014 年の新年会を行いました。昨年、一緒にモンゴルに行った夫妻と、2003 年からサポートしてくれている会員が参加。美味しいもつ焼き料理をみんなで食べました。